〔教育講演Ⅱ〕

全自動超音波洗浄装置

○中田 精三, 中谷 博, 野口 悟司, 梅下 浩司, 上山 博史,
高階 雅紀, 柳生 啓子, 三村美智子, 越智 隆弘 (大阪大学手術部),
大井 一正 (サクラ精機)

現在使用している全自動超音波洗浄装置では, 手術器械の洗浄とそれらを搬送するために使用するコンテナの洗浄を全自動方式にて行っているが, 40℃の温水を利用しているため感染症に使用した手術器械はウォッシャーディスインフェクターにて別に洗浄している. これでは煩雑であるため全自動超音波洗浄装置で93℃, 10分間の熱水処理を行うことによって, ウォッシャーディスインフェクターと同様に洗浄消毒が可能にできるかを検討してきた. 今回その改造を行い得たのでその仕様につき報告する.

今回行った全自動超音波洗浄装置の改造は, より大きな手術器械が洗浄できるようインナーバスケットの高さを50/70mmの混合使用にしたことと, 手術器械をすすぎ槽で93℃, 10分間の熱水処理ができるようにしたことである. なお, これに伴いコンテナ洗浄装置も同様の熱水処理が行えるようにした. この改造には温水の供給と配管の変更, 蒸気の排気, 槽の改造, 耐熱部品への変更および熱水制御への変更等が必要であった. 現在, 試験的に使用している段階であるが, 今後本装置の消毒効果の有効性についても検討していく予定である.